

浄土真宗本願寺派 西光寺寺報

住職の満中陰法要を報恩講に引き続き厳修いたします！

慈光照護のもと、門信徒の皆様には愈々清祥にお念仏ご相続のことと存じます。

号外にも書きましたが、住職の死去に際しましては門信徒のみなさまのご香典・ご協力、誠に有り難うございました。おかげさまで滞りなく葬儀をすませることができました。また、入院中にもたくさんのお見舞をいただき有り難うございました。

さて、標題のとおり、住職の満中陰（十九日）法要を、報恩講に引き続き十月十七日の午後一時半より厳修させていただきますこととなりました。本当なら十月十二日なので、ちよつと遅れるのですが、なるべくみなさんにお参りいただけるよう、報恩講と一緒にしました。例年通りの報恩講のご満座のあと、お参りのみなさまにはお齋を食べていただけて、そのまま本堂でゆつくりしていただければと考えておりますので、ぜひお参りいただきたいと思ひます。

報恩講にお参りください。10月
16日 昼二時・夜七時 17日 朝十時・昼一時半

「報恩講が厳修されます」

日	10時〜	14時〜	19時〜
16日 (木)		大速夜 報恩講作法 法話二席	初夜 十二礼 御伝鈔拝読 法話一席
日	10時〜	13時半〜	
17日 (金)	ご満座 阿弥陀経作法 法話一席	満中陰法要 法話一席	

福井市教應寺住職

ご法話 本願寺布教使

奥田 順誓師です。

※ピンク色の部分は例年と違う部分です。時間の変更に注意してください。

※例年十六日の大速夜の法座のあとにお齋（炊き込みご飯類）をお分けしておりますが、今年は満中陰の関係で十七日のご満座のあとにお分けしたいと思います。お茶などもご用意しますので、ぜひお寺で召し上がっていただいで、午後の満中陰法要に引き続き

お参りいただければと思います。十六日にはお分けいたしませんのでどうぞご理解ください。

毎年書かせていただいておりますが、報恩講は、『南無阿弥陀仏』ひとつで救われていくという浄土真宗を選びとってくださった親鸞聖人のご恩に報いる、一年で一番大切な法要です。私（みなさん）一人のために阿弥陀如来が『南無阿弥陀仏』を仕上げてくださったのですから、今聞かせていただくよりほかはありません。『そのうち』でも『もう少し歳をとったら』でもありません。今ですよ。

なお、三人だった寺族が二人になつてしまったため、報恩講の準備・運営に大きな支障が出るのが予想されます。すでに複数のご門徒の方から、お手伝いなどのお申し出をいただいておりますが、特に十七日の昼はご法中（ご出勤くださるお寺様）にも、お参りのご門徒にもお齋を出しますので、間違ひなく混乱すると思ひます。お手伝いくださる方は寺までご連絡いただければたいへん有り難いです。事前の準備などの手助けも

してくださる方、絶賛募集中です。

『真宗の美』 展開催！』

この秋、『真宗の美』親鸞と福井、ゆかりの名宝』という展覧会が福井県立美術館で開催されます。県内真宗寺院所蔵のゆかりの品々と、西本願寺の法宝物・美術品をあわせて、国宝2点、重要文化財9点を含む約110点が展示され、真宗の歴史と信仰、その美が紹介されます。このような企画が今後もしあっても、これだけの宝物が一堂に会することは二度とないと思われる凄惨な展覧会です。この機会にぜひ鑑賞してください。近くの方にはチラシを同封しましたので、ぜひ詳しく見ていただきたいと思えます。なお、申し上げにくいのですが西光寺にも前売りチケットのノルマが来ています。その数20枚。一枚千円ですので、よろしく願います。なお、県立美術館までの足がない方、何人か集まって相談していただければ、私の車で一緒に送らせていただきますので、遠慮なくおっしゃってください。ただ、私は報恩講と満中陰が済んでからにしたいと思っております。

『永代経法要が厳修されました』

去る六月二十七日（金）に当院の永代経が厳修されました。昼座には十六人、夜座には六人の参詣がありました。また御仏供米（御膳米）は十八名の門信徒の方にお供えして

いただきました。お参りどうもようこそでございました。また、御蠟燭もお供えいただき有り難うございました。御仏供米については、あるご門徒さんから、「やはりお米を入



昼座のご法話を聴聞するみなさん

れる袋を配布した方がよい」とご助言をいただきました。もともとは坊守が縫った袋をお分けしていたのですが、残念ながら袋が戻ってこない状況が増えて来たために私の意見で廃止したのですが、やはり袋を配布した方がよいのかなあとも考えています。近くのお寺の状況なども聞きつつ、来年に向けて検討させていただきたいと思えます。

『編集後記』

これまで、「親孝行、したくないのに親がいる」などどうそぶいていた私ですが、実際に親がいなくなってみると、あれもこれもわからないことだらけで戸惑っています。お寺の運営は現状では前途多難と言えらると思えます。施設面だけみても、やつと庫裏の屋根の修理が終わったのに、今度は残念なことに本堂からも雨漏りしていることが発覚しました。どうしたらいいのか頭を抱えるばかりです。しかし、京都でお世話になった福間義朝先生が言ってくれた「あんたが生まれたとき、ご門徒さんは喜んだらう？これからは仏法を伝えることでご門徒さんに恩返しをしなければ」という言葉を忘れずに歩んでまいりたいと思えます。どうぞよろしく願います。

※来寺のお約束や、お参りの変更など、重要なことは必ず私の携帯に電話下さい。出なければ留守電に入れてください。こちらからご連絡いたします。

電話番号 090-8967-7902

メールアドレス

soichiro4989@gmail.com